

(3) 環境省、GEOC 主催会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業関連の会議・会合等について、下記の実施された会合すべてに出席した。

区分	開催日	開催方法	実施内容等
成果報告会	3月8日	オンライン	- 各活動団体取組内容の発表 - ネットワーキングイベント
情報交換会	6月1日～2日	オンライン	- 今年度選定団体(継続団体)の発表 - 地方ブロック別コミュニケーションタイム など
中間報告会	12月3日	オンライン	- 事業化支援団体、環境整備団体(計6団体)によるプレゼンテーション - 意見交換会
	12月6日		- 事業化支援団体、環境整備団体(計11団体)によるプレゼンテーション - 意見交換会
	12月7日		- 事業化支援団体、環境整備団体(計11団体)によるプレゼンテーション - 意見交換会
作業部会	9月10日	オンライン	- 全国事務局の状況共有(GEOCのポジションと仮説) 3つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換(“いけてる”案件) 3つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換(“いまいち”案件) - グループ毎の意見交換を全体へフィードバック
	12月8日	オンライン	事例研究:3EPO1グループで事例発表・説明＋意見交換
共有会	5月12日	オンライン	- PF事業について(PF事業概要／令和3年度について／昨年度を経ての現在地) - 新規活動団体(20)へのヒアリング結果(全体の概観について) - 新規活動団体(20)へのヒアリング結果(各地方から共有) - 意見交換(“動的プラットフォーム”を環境整備の出口イメージとすることについて／関係者間の情報共有と役割分担について) - 情報交換会(キックオフ)について
	12月8日	オンライン	- 環境整備支援状況の共有 - PF事業全体の共有 - 来年度についての議論の共有
	3月9日	オンライン	- R3年度事業の振り返り - 事業全体について共有・議論 - 令和4年度事業について共有
ブロック別共有会(中部)	9月9日	オンライン	環境整備活動団体ごとの情報共有

(4) 支援チーム派遣の団体の活動の情報共有

- 事業化支援団体である PF 小布施（スマート・テロワール協会）に関連する取組について、下記に参加し、事業化支援事務局と情報共有等を行った。

実施内容	開催日	開催方法	実施内容
事業化支援キックオフミーティング	6月30日	オンライン	- 事業の進捗状況について - 支援計画について - 今後のスケジュールの確認
事業化支援小布施地域ミーティング	8月25日	オンライン	- 事業の進捗状況について - ソーラーシェアリング支援計画について - 今後のスケジュール

(5) 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催

ア 情報交換会等の実施

- 4月15日に白山自然保護官事務所、信越自然環境事務所、4月20日に伊勢志摩国立公園事務所のそれぞれの担当官と、中部地方環境事務所担当者、EPO 中部でオンライン打合せを実施し、本業務の前年度・2020年度実施例の説明と共に、今年度の実施に関わる協力依頼と、地域側のニーズなどについてヒアリングを実施した。
- 上記ヒアリングで紹介のあった団体の中から、5月17日に白川郷まると体験協議会（岐阜県白川村）と、5月21日に白山市ジオパーク・エコパーク推進課と打合せを行った。協議の結果、白山市ジオパーク・エコパーク推進課と連携・協力して「白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会」を開催することが決定した。
- 12月21日には、北陸財務局とオンライン打合せを実施し、本業務の趣旨説明と共に、情報交換会への登壇、協力依頼を行った。

イ 白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会の開催

①日時

- 2022年 3月2日（水）13:30～16:00
- 2022年 3月3日（木）9:30～12:00

②主催等

- 主催：EPO 中部
- 共催：白山手取川ジオパーク推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会



③開催場所・方法

- 会場：白山市鶴来総合文化会館クレイン2階 研修室
- 登壇者の一部はオンラインで登壇

④参加者

- 一日目・第1回情報交換会：25名
- 二日目・第2回情報交換会：27名

⑤プログラム

○一日目：第1回情報交換会

- ・ あいさつ
環境省中部地方環境事務所 環境対策課 主査 佐藤 堅太 氏（オンライン登壇）
- ・ 情報提供：「白山国立公園における取組について」
環境省白山自然保護官事務所 自然保護官 迫 裕樹 氏（オンライン登壇）
- ・ インプット①
「地域が主役のユネスコ活動：白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークの共有価値とは？」
筑波大学芸術系（世界遺産学学位プログラム・自然保護寄付講座）准教授 飯田 義彦 氏
- ・ インプット②
地域の取組紹介：白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛 氏

- ・ ワークショップ
「白山ワイズユース（恵の保全・活用）による SDGs」 その 1
決したい地域課題の抽出・共有

○二日目：第2回情報交換会

- ・ あいさつ
財務省北陸財務局 総務課企画調整官 前田 雅城 氏（オンライン登壇）
- ・ 話題提供：地域の取組事例より
NPO 法人白山しらみね自然学校事務局長 山口 隆 氏
- ・ ワークショップ
「白山ワイズユース（恵の保全・活用）による SDGs」 その 2
これから皆さんが取り組みたい事業・地域課題解決ビジネス等のアイデア抽出と共有
終わりに・2日間のまとめ



⑥開催案内

環境省 森里川海推進ネットワーク形成会

白山手取川ジオパーク & 白山ユネスコエコパーク 情報交換会

主催：
環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
<http://www.epo-chubu.jp>

共催：
白山手取川ジオパーク推進協議会
白山ユネスコエコパーク協議会

後援：
白山市

開催案内

第1回
2022年
3月2日(水)
13:30~16:00

第2回
2022年
3月3日(木)
9:30~12:00

【会場(両日)】
白山市鶴来
総合文化会
館クレイン
2階・研修室

テーマ

白山手取川ジオパーク、
白山ユネスコエコパーク(BR)における
**自然資源の
ワイズユースと
ローカルSDGs**

※自然資源のワイズユースについて：
もともとはラムサール条約に記された考え方で、一般的には自然資源の「賢明な利用」と訳されます。
自然資源は、「経済上、文化上、科学上及びレクリエーション上大きな価値を有する資源」でもあると
して捉え、自然資源のバランスの取れた保全と活用に取り組み、自然生態系そのもののや、その維持、
及びその「恵み」の活用も、持続可能なものにしていこうという考え方です。

第1回 情報交換会 日時： 2022年 3月2日(水) 13:30~16:00 会場： 白山市鶴来総合 文化会館クレイン 2階・研修室	プログラム	
	01	はじめに／森里川海プロジェクトについて 環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査 佐藤 堅太 氏
	02	環境省からの情報提供 「白山国立公園における取組について」 環境省白山自然保護官事務所 自然保護官 迫 裕樹 氏
	03	インプット① 「地域が主役のユネスコ活動：白山手取川ジオパークと 白山ユネスコエコパークの共有価値とは？」 筑波大学芸術系(世界遺産学学位プログラム・ 自然保護寄附講座)准教授 飯田 義彦 氏
	04	インプット② 地域の取組紹介 白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛 氏
	05	ワークショップ 「白山のワイズユース(恵みの保全・活用)による ローカルSDGs」【その1】 ー 決したい地域課題の抽出・共有

第2回 情報交換会 日時： 2022年 3月3日(木) 9:30~12:00 会場： 白山市鶴来総合 文化会館クレイン 2階・研修室	プログラム	
	01	はじめに／地域経済エコシステムと 北陸財務局における地域連携・貢献の取組 財務省北陸財務局総務課企画調整官 前田 雅城 氏
	02	話題提供：地域の取組事例より NPO法人白山しらみね自然学校事務局長 山口 隆 氏
	03	ワークショップ 「白山のワイズユース(恵みの保全・活用)による ローカルSDGs」【その2】
	03-1 03-2	ー 《前回のふりかえり》皆さんが解決したい地域課題について ー これから皆さんが取り組みたい事業・地域課題解決ビジネス等の アイデア抽出と共有
	03-3	ー 終わりに／2日間のまとめ

ウ 「SDGs 共感ストーリー」ワークショッププログラムの整理

- 前年度・2020 年度に実施した「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップのプログラム及びツールを公開用コンテンツに整理し、EPO 中部ウェブサイトで公開した。

実施したワーキング	整理対象のワークショッププログラム
2021 年 1 月開催 森里川海推進ネットワーク形成会合 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会 情報交換会	「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップ

EPO中部のワークショップ・プログラム

ご活用ください！

EPO中部は、地域循環共生圏づくり（ローカルSDGs実践）に取り組む地域／団体を支援するため、様々なワークショップやディスカッションなどワーキングを企画・実施しています。

ここではEPO中部がオリジナルで立案した各種ワーキングのプログラムや用いたツールや資料を紹介しています。

ここに公開しているツールや資料は、自由にダウンロードしてご活用ください。

また、EPOでは、研修や勉強会などのプログラムづくりの相談や、講師、ファシリテーター役の募集なども受けています。

SDGs共感ストーリーづくりワークショップ

- ・2021年1月に開催したエコツーリズム団体による情報交換会で実施したワークショップです。
- ・参加者はエコツーリズムに関わる観光・宿泊・特産品販売等の事業者です。
- ・EPO中部の進行・ファシリテーションによる、約50分間のオンライン・ワーキングを実施しました。

目的

参加者の事業者が観光客や来訪者などに、自分たちの事業とSDGsとのつながりを説明できるよう、自身の取組とSDGsの関わりについて共感をもって語ってもらえる物語を考えていただきました。

プログラムの流れ

PDFで開く (142KB)

ワークショップの流れ (全 70 分での構成例)

目標：自身の取組とSDGsの関わりについて共感をもって語ってもらえる物語を考える

●前説、ワークシートダウンロード案内 (5分)

●SDGsとのどんな関わりを物語にするかを考える (SDGsワーキング用シート)

○自身の取組とSDGsの関わりを確認 (5分)

- ・自分の取組を四角の中に記入する。
- ・U字ワークシートを記入、関連のあるゴールと線を引き、
- ・なぜそのゴールと関連するかを記入する。

○その中から一つ～三つ選んで説明内容を考える (人に訴える内容であればあるほど)。(10分)

- ・ワークシートに考えた説明内容を記入する。
- ・取組内容⇒なぜそのゴールに貢献するのか⇒貢献するゴールやターゲット

結果の紹介 (5分)

●共感する物語を考える (物語ワークシート)

○活動でSDGsのゴールに貢献すると幸せになる主人公を考える (5分)

例) ゴール11：海の生態系の場合

- ・魚が取れなくなって困っている漁師
- ・海岸が汚れて遊び場がなく悲しんでいる地元の子ども
- ・仲間がビニール袋を食べて顔死してしまうのを見たウミガメ
- ・実際に困っている人(仮名で)登場させてもよい

作業状況チェック (5分)

○誰に共感してもらいたいか、誰なら共感してもらえるかを考える (5分)

- ・自分が説明したい対象は誰か
- ・共感してくれそうな人は誰か
- ・主人公の物語を聞いてくれそうな人は誰か

作業状況チェック (5分)

○考えた主人公から見た、SDGsへの貢献で幸せになる物語を作ってみる (15分)

- ・主人公が困っていたこと
- ・「その取組」が解決に貢献してくれた (するはずの) こと
- ・「その取組」の内容、誰がどこでどんな人とどんなこと
- ・「その取組」の結果どんな変化がおきた (おきる) のか
- ・それによって主人公はどのように幸せになった (なる)

●物語を発表、感想 (10分)

- ・いくつか選んで発表、発表者相互に感想

使用ツール

●説明用「ワークショップ用スライド」

「ワークショップ用スライド」のダウンロードは [こちら](#) [PDF/1412KB]

●SDGsとのどんな関わりを物語にするかを考える「SDGsワーキング用シート」

「SDGsワーキング用シート」のダウンロードは [こちら](#) [PDF/404KB]

●共感する物語を考える「物語ワークシート」

「物語ワークシート」のダウンロードは [こちら](#) [PDF/320KB]

お役立ちツール

活動見える化プログラム

EPO中部では、活動報告の目的の「活動見える化プログラム」を開発し、地域循環共生圏づくりの推進に活用されています。

EPO申請・協働コーディネーターのリスト

活動開始の促進に、協働コーディネーターのリストが活用されています。EPO中部は協働の推進に力を入れています。

SDGsチェックリスト

SDGsチェックリストは活動や事業に17ゴールと関連する「関係性」のチェックリストで、EPO中部のSDGs実践の推進に活用されています。

中部の環境イベントリスト

中部エリアで開催されている環境関連イベントのリストを公開しています。活動・取組を推進する場・機会を把握するために活用ください。

EPO申請関連資料集 情報交換会一覧

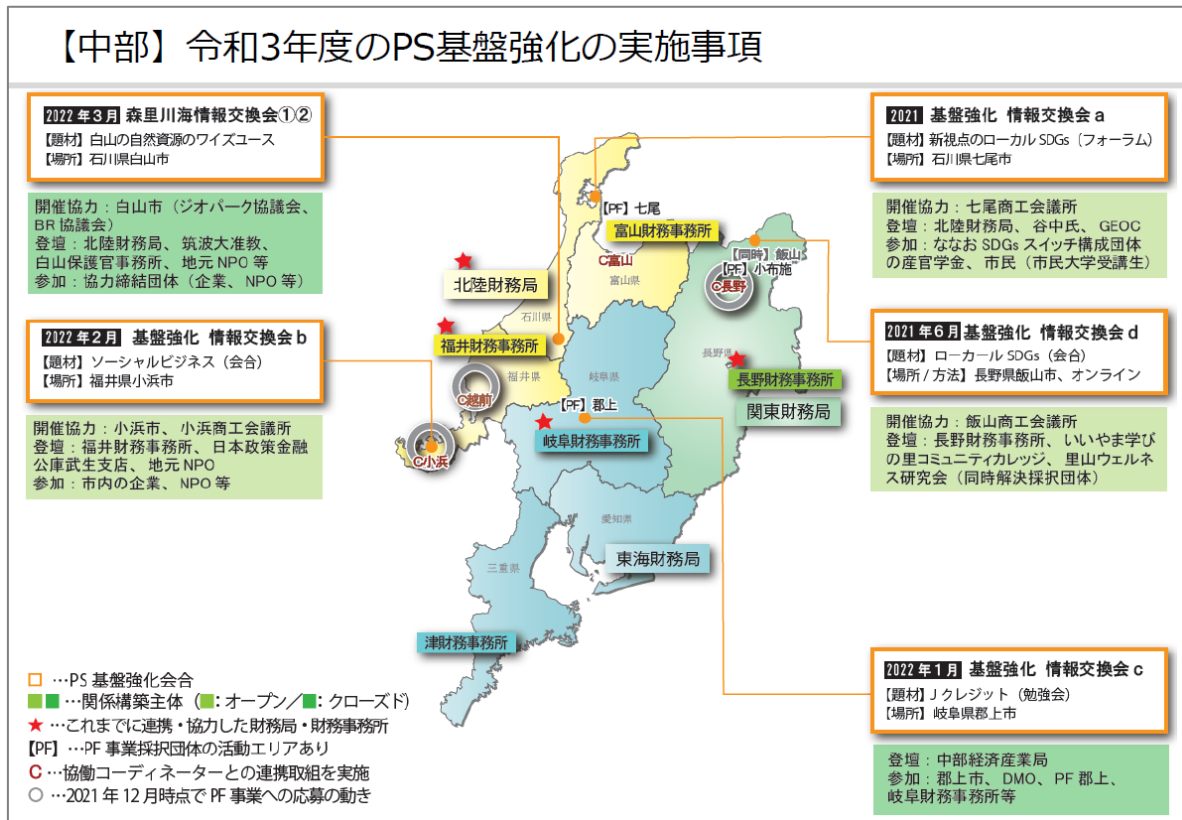
EPO申請 (2020年度) 及びEPO中部の関連資料について情報交換会を開催しています。

EPO中部のワークショッププログラム

地域循環共生圏づくり (ローカルSDGs実践) に取り組む地域・団体を支援するため、EPO中部は様々なワークショップのプログラムを公開しています。

お役立ちツールサイトに新コーナーを設置

(6) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業



ア 情報交換会①：ローカルSDGs×飯山ミーティングの実施

①日時

- 2021年6月26日（土）14：00～16：00

②開催方法

- オンライン

③参加者

- 一般公募 22 名（zoom 接続数）

④プログラム

- (1) はじめに／地域循環共生圏（SDGs、地域課題の同時解決）等について
曾山信雄氏／環境省中部地方環境事務所環境対策課長
- (2) 妙高戸隠連山国立公園における協働型管理運営の取組について
岸秀蔵氏／環境省信越自然環境事務所国立公園課長
- (3) 地域経済エコシステムについて
矢島一郎氏／財務省関東財務局長野財務事務所長
- (4) 「飯山林福連携事業」（環境省のSDGsを活用した同時解決事業採択の取組）の紹介
宮澤豊氏／里山ウェルネス研究会代表 大和田正勝氏／里山ウェルネス研究会事務局長
- (5) 奥信濃における内発的なSDGsとコミュニティカレッジの地域実践
小島聡氏／法政大学人間環境学部教授・いいやま学びの里コミュニティカレッジ学長
- (6) 質疑応答ディスカッション
ファシリテーター：EPO 中部



⑤開催案内チラシ





地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

ローカルSDGs かける 飯山 信州 ミーティング

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
<https://www.epo-chubu.jp>

開催日時：2021年 6月26日(土) 14:00～16:00

開催方法：オンライン (zoom)

参加方法：事前申込

※6月24日申込締切

※定員：先着30名

申込された方へ前日25日にzoomの参加URLをお送りします。

申込フォーム：<https://forms.gle/Y1SFotceaY6J6XKz8> →

または、Eメール：info@epo-chubu.jp

必要事項：①名前、②ご所属先、③参加URL送付先のメールアドレス



※定員超過後に申込された方へはYouTubeの視聴URLをお送りします。

プログラム

- (1) はじめに／地域循環共生圏 (SDGs、地域課題の同時解決) 等について
環境省中部地方環境事務所環境対策課長 曾山 信雄 氏
- (2) 妙高戸隠連山国立公園における協働型管理運営の取組について
環境省信越自然環境事務所国立公園課長 岸 秀蔵 氏
- (3) 地域経済エコシステムについて
財務省関東財務局長野財務事務所長 矢島 一郎 氏
- (4) 「飯山林福連携事業」(環境省のSDGsを活用した同時解決事業採択の取組) の紹介
里山ウェルネス研究会代表 宮澤 豊 氏
里山ウェルネス研究会事務局長 大和田 正勝 氏
- (5) 奥信濃における内発的なSDGsとコミュニティカレッジの地域実践
法政大学人間環境学部教授 小島 聡 氏 (いいやま学びの里コミュニティカレッジ学長)
- (6) 質疑応答ディスカッション
ファシリテーター：EPO中部

参加無料
お気軽に
ご参加ください

イ 情報交換会②：郡上ミーティングの実施

①日時

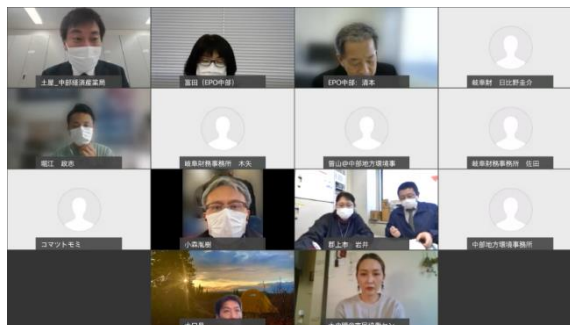
- 2022 年 1 月 27 日（木）13：30～16：00

②開催方法

- オンライン

③出席者

- 関係者 15 名



所属	氏名
郡上市地域共生圏協議会	小森 胤樹
有限会社イトアンドライブ取締役	水口 晶
中部スノーアライアンス株式会社取締役支配人	堀江 政志
郡上市市民協働センター	大中 瞳
市長公室政策推進課課長補佐	三島 宏治
市長公室政策推進課地域戦略推進係長	岩井 彩乃
中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課係長	土屋 博義
東海財務局岐阜財務事務所理財課主任調査官	日比野 圭介
東海財務局岐阜財務事務所理財課調査官	佐田 一真
東海財務局岐阜財務事務所総務課企画係長	木矢村 匡
中部地方環境事務所環境対策課長	曾山 信雄
中部地方環境事務所環境対策課主査	佐藤 堅太
中部環境パートナーシップオフィス統括	清本 三郎
中部環境パートナーシップオフィス ESD 責任者	原理史
中部環境パートナーシップオフィス EPO 責任者	富田 夏子

④議事次第

○はじめに/地域循環共生圏について

環境省中部地方環境事業所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏

○J クレジットの概論とメリット

中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課係長 土屋 博義 氏

○ディスカッション

「J クレジットについて」

ファシリテーター：EPO 中部

- ① J クレジットを活用して郡上で取り組みたいこと
- ② メリット・デメリットの確認
- ③ 必要な仕組み、担い手の確認
- ④ 郡上の森や地域をどうしたいのか

⑤開催案内

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 郡上ミーティングの開催について 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） https://www.epo-chubu.jp	オンラインでの参加方法 ● webexの参加URL: https://kankyosozokenkyucentermy.webex.com/join?MTID=mea7931c143a81ac67a2248758a5e9bac ミーティング番号:2517 882 9055 / パスワード:Bfi3wfGB5M8 ● ディスカッションで使用するオンライン・ホワイトボード (Googleジャムボードを使用) ・ 1/27当日に使用するボードのURL(※当日まで操作不可です): https://jamboard.google.com/d/1nQ42F9vFOEcY7A3G44d4WSgTPNny0baJUBONas/edit?usp=sharing ・ テスト用ボード(※自由に操作をお試しいただけます): https://jamboard.google.com/d/1BPvAv8d8ed_GD9k7ekZ1IMC6OHUwDfDo_x4kz2g/edit?usp=sharing
---	--

郡上ミーティング開催概要

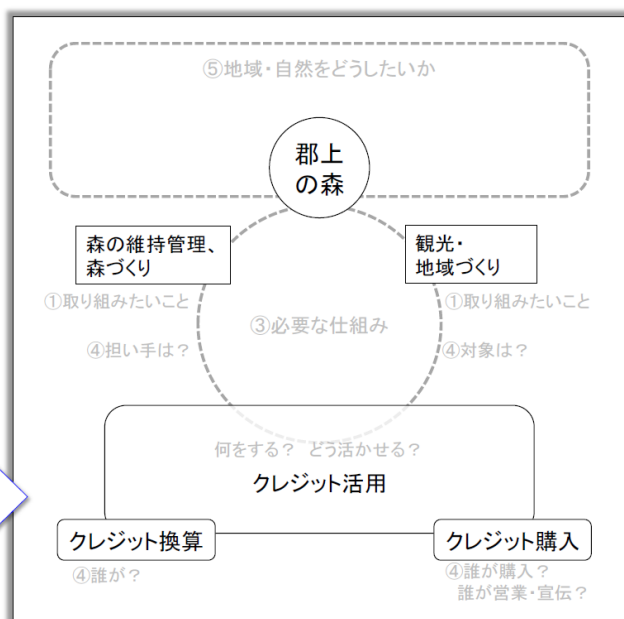
- 開催日時:2022年1月27日(木)13:30~16:00(2.5時間予定)
- 開催方法:オンライン(webex使用)
 - ◆ 参加URL:<https://kankyosozokenkyucentermy.webex.com/join?MTID=mea7931c143a81ac67a2248758a5e9bac>
 ミーティング番号:2517 882 9055 / パスワード:Bfi3wfGB5M8
- 参加者:別紙リスト参照
- 実施内容:
 1. ご挨拶／本会合(PS基盤強化事業)の趣旨／中部地方環境事務所(5分)
 2. 講義:Jクレジットについて(30分+質疑5分)
 【講師】中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課係長 土屋博義氏
 3. ディスカッション／ファシリテーター:EPO中部(100分)
 - ◆ オンラインホワイトボードを使用(Googleジャムボード ※p3参照)
 - ① 進め方／オンラインホワイトボードの使い方
 - ② Jクレジットを活用して郡上で取り組みたいこと
 - ③ 上の①のメリット・デメリットの確認
 - ④ 必要な仕組み、担い手の確認
 - ⑤ 目指すべき地域ビジョン／今後の展開のあり方の確認
 4. 終わりにあたり

ディスカッションのイメージ案

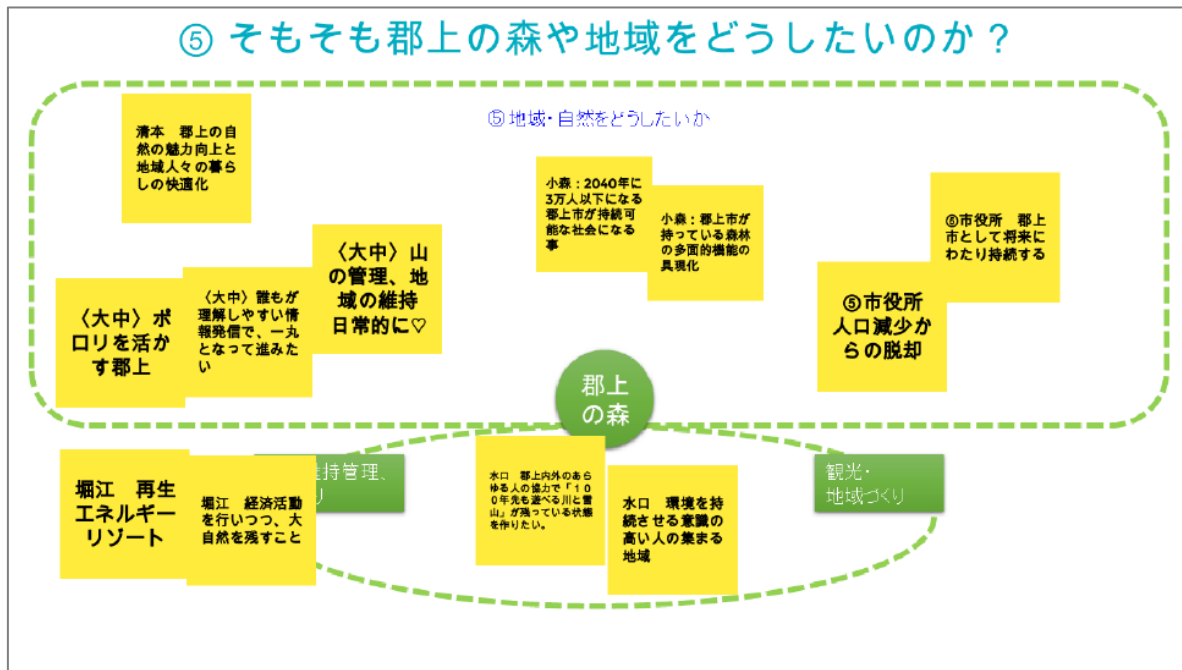
【お題】

- ① Jクレジットを活用して郡上で取り組みたいことは？
- ② 上の①のメリット・デメリットとは？
- ③ 必要な仕組みとは？
- ④ 誰が担う？誰が対象？
- ⑤ 感想:(Jクレジット活用等で)郡上の地域・自然をどうしていきたいか？(意義・ビジョンの確認)

①～⑤を色別の付箋に書いて、右・模造紙に貼り付けながらディスカッション
 ※オンライン参加:チャットでコメント入力



【オンラインホワイトボードを活用して実施したディスカッション】



ウ 情報交換会③:小浜Xローカル SDGsX地域ビジネスミーティングの実施

①日時

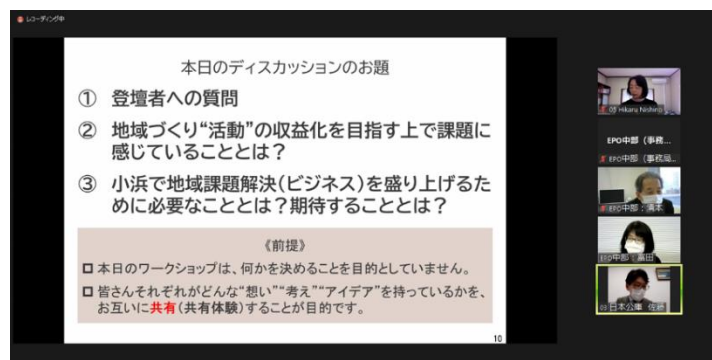
- 2022年 2月4日(木) 13:30～16:00

②開催方法

- オンライン

③出席者

- 関係者 22名



④プログラム

- はじめに/地域循環共生圏について
環境省中部地方環境事業所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏
- 地域側へのインプット①: 地域経済エコシステムについて
財務省北陸財務局 福井財務事務所総務課長 吉村 邦男 氏
- 地域側へのインプット②: 日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援
日本政策金融公庫武生支店融資課長 佐藤 創 氏
- 地域課題解決と経済性確保の両立を目指す地域活動
ケース①: 厄介モノ「アブラギリ」を活用した取組
NPO 法人 WAC おばま理事 中畠 阿児 氏
ケース②: 海ごみを宝物に。アップサイクルへの挑戦
アノミアーナ代表 西野 ひかる 氏
- ディスカッション
「地域」活動」の「ソーシャル・ビジネス」移行によるローカル SDGs 実践を目指して
～小浜における地域課題解決の取組みを題材に～」
ファシリテーター: EPO 中部

⑤開催案内

環境省EPO中部主催
https://www.epo-chubu.jp
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

**小浜 × ローカルSDGs
× 地域ビジネス ミーティング**

開催案内

開催日: 2022年2月4日(金) 13:30~15:30
参加方法: ZOOM
※事前の参加登録や参加申込は《不要》です

ご注意: 完全オンライン
開催に変更しました



**「小浜×ローカルSDGs×地域ビジネス」
ミーティングについて**

地域の経済団体・地域づくり団体とのパートナーシップ強化を目的に、地域における地域循環共生圏づくりの普及啓発・推進を目指したEPO中部主催会合を開催します。

小浜会合においては、地域循環共生圏づくりを念頭に、地域の団体等による従来の地域活動を地域ビジネスへシフトさせるために、今後、どのような展開・方向性を目指す必要があるかなどについて、関係機関や金融・経済団体を交えて情報交換を行います。

プログラム

ご注意: 完全オンライン
開催に変更しました

日時: 2022年2月4日(金)
13:30~15:30

参加方法: zoomのみ
※zoomのURL等は、次ページを参照してください。

- はじめに
■環境省
中部地方環境事務所
- 地域経済エコシステムについて
■財務省北陸財務局
福井財務事務所総務課長
吉村邦男 氏
- 日本政策金融公庫の
ソーシャルビジネス支援
■日本政策金融公庫武生支店
融資課長 佐藤創 氏
- 地域課題解決を
目指す取組の紹介
4. 厄介モノ「アブラギリ」を
活用した取組
■NPO法人WACおばま理事
中島阿児 氏
- 海ごみを宝物に。
アップサイクルへの挑戦
■アノミアーナ代表
西野ひかる 氏
- ミニ
ディスカッション
6. 地域“活動”の“ソーシャル・
ビジネス”移行によるローカル
SDGs実践を目指して
～小浜における地域課題解決の取組
を題材に～
■ファシリテーター: EPO中部

エ 情報交換会④：地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in 七尾の実施

①日時

- 2022 年 2 月 23 日（水）13：30～15：45

②主催等

- 主催：EPO 中部
- 後援：ななお SDGs スイッチ

③開催会場・方法

- 会場：七尾商工会議所 大ホール +ハイブリッド設営（YouTube ライブ配信）

④参加者

- 一般公募 26 名（うち YouTube 視聴 15）

⑤プログラム

- 環境省中部地方環境事業所環境対策課長 佐藤 堅太 氏
- 地域経済エコシステムと北陸財務局における地域連携・貢献の取組
北陸財務局総務課企画係長 藤井啓太氏
- 講演
「ローカル SDGs の超絶まちづくり～イノベーターの思考回路を突き抜ける～」
BBT 大学経営学部グローバル経営学科学科長・教授/
地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏
- 地域循環共生圏づくりの最前線
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）江口 健介 氏
- 終わりに
七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室室長 入口 翔 氏



⑥開催案内チラシ



環境省地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in七尾

地域循環共生圏づくりは ローカルSDGs実践です

開催日時：2022年2月23日（水・祝）13:30～15:45
 参加方法：事前申込制／参加無料

①《会場参加》会場：七尾商工会議所・大ホール
 ②《オンライン視聴》YouTubeライブ配信を限定公開

① 会場参加（定員30名） どちらも事前の 申込フォーム
 ② YouTubeで視聴 申込が必要です。 はこちらから



WEB [epo-chubu.jp](https://www.epo-chubu.jp)
<https://www.epo-chubu.jp>
 @EPOchubu

申込フォーム：<https://forms.gle/U77Ak9egHEUm3mZ6>

※ 登壇者の皆さまが全員オンラインでの登壇となる可能性があります。
※ 会場参加を中止し、YouTubeライブ配信のみとさせていただきます可能性があります。
新型コロナウイルス対策にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

プログラム

- はじめに 環境省中部地方環境事務所
- 地域経済エコシステムについて
財務省北陸財務局
- 講演 ※オンラインでの登壇となります。
 ローカルSDGsの超絶まちづくり
 ～イノベーターの思考回路で突き抜ける～
 BBT大学経営学部グローバル経営学科学科長・教授／
 地方創生イノベータープラットフォームINSPIRE代表理事
 谷中 修吾 氏



【講師プロフィール】
 谷中修吾氏（ビジネスプロデューサー／クリエイティブディレクター）
 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。外資・戦略コンサルティングファーム Booz Allen Hamiltonにて、政府機関・民間企業の戦略立案・実行支援を経て現職。国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアする取組を展開。地方創生分野において、環境省、内閣府、総務省、農林水産省、文部科学省で有識者を務める。環境省の「グッドライフアワード」総合プロデューサー、「地域循環共生圏プラットフォームの在り方検討委員会」委員なども歴任。著書『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）で、1万人のビジネスリーダーが選ぶ「TOPPOINT大賞」にてベストビジネス書受賞。
- 地域循環共生圏づくりの最前線
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC) 江口 健介 氏
- 終わりにあたり
七尾商工会議所 SDGsプロジェクト推進室室長 入口 翔 氏

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
 後援：ななおSDGsスイッチ



環境省中部環境パートナーシップオフィス

オ 事業検討会議への参加

- GEOC が開催した下記の事業検討会議に出席した。

区分	開催日	開催方法	実施内容等
事業検討会議	9 月 22 日	オンライン	- 各アドバイザーからの活動・事例紹介:①株式会社日本政策金融公庫、②草の根金融研究所「くさのーね」、③環境・エネルギー部 - 環境・エネルギー政策室 - 事例共有 - 各地方事務所の取組・課題 への質問など - 不足情報へのアドバイス・質疑応答
	2 月 8 日	オンライン	- 令和 3 年度 PS 基盤強化事業の進捗及び成果共有 - アドバイザーも交えて不足情報へのアドバイス・全体ディスカッション

カ 情報交換会への参加

- GEOC が開催する下記の情報交換会に出席した。

区分	開催日	開催方法	実施内容等
情報交換会	11 月 30 日	オンライン	- 金融機関や企業に対して、SDGs や ESG についてどのようにコミュニケーションをとればよいか。 - その時に必要となる知識は何か、どのように学べばよいか。
	1 月 26 日	オンライン	未実施

(7) 地域循環共生圏の担い手（団体等）との関係構築

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に申請を予定している団体を対象にヒアリングを実施した。
- 仕様書上では 2 団体程度を対象に実施となっていたが、次年度・令和 4 年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択予定数が 8 団体と公表され、各地方 1 団体程度になることが予想されたため、中部地方環境事務所の担当官と協議のうえ、プラットフォーム構築事業への応募が確定していた 1 団体のみを対象とした。

① ヒアリングの実施概要

取組	越前エリアにおける里山里海保全活動の収益化による地域循環共生圏づくり
対象	合同会社ローカル SD クリエーション社長 三田村佳政氏
実施日	2022 年 2 月 3 日・オンライン会議ヒアリング

② ヒアリング結果

① 取組の概要	(1) 取組・活動・事業の概要	- 越前エリアでの里山里海保全活動をエコグリーンツーリズムによる収益化、農産品のブランド化などをはかりつつ、多数の既存の活動が連携して広域的、継続的、定期的な受け入れ体制を構築する。 - 体制づくりでは、将来的な担い手不足にも対応できるよう、人材育成、少人数での効率的な運営の仕組みづくりなどにも取り組む予定である。
	(2) 取組事例の地域	丹南エリアが活動エリアとなるが、まずは越前市・越前町での取組が中心となる予定である。
	(3) 主な関係主体／ステークホルダー 等	- エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、さかのくち活性化協議会をはじめとする地域活動団体や越前町のダイビングショップ、旅館業者などのほか、市・県の協力も得られる予定である。 - 将来的に広域的なエリア展開を図ることを念頭に、特に県（環境部自然環境課）との連携関係を重視している。

		越前市東部のホテル・郷土料理をテーマにしたツーリズムを展開している団体にも声がけを行っているところである。
②地域循環共生圏づくり事例としての概要（循環要素）	(1)地域内に循環するもの・こと	- 地域資源の見直しに取り組みつつ、エコグリーンツーリズムの収益化を図る。 - さらに農産品の新商品化・販売強化も展開し、個々の活動が連携させつつ持続可能な活動へと転換させて、人材育成にも取り組む。
	(2)対象となる主な地域資源	まずは自然資源があげられる。そのほか、郷土料理や農産品、溜池やダムなどの水辺空間、廃道・廃トンネルなど、地域内の資源の洗い出しをプラットフォームで実施できればと考えている。
	(3)対象となる主な地域課題	- 現在のグリーンツーリズムの担い手は、自分達の取組を「地域活動」と認識しており、ビジネスへと意識変換させる必要がある。 - 行政による無料のツーリズムプログラムもあり、ビジネス化への転換過程では、プラットフォームが展開するツーリズムの差別化にも留意が必要となっている。 - 人口減・高齢化が進んでいる地域であり、人材確保も課題となっている。外部から移住等のみを募る方法は難しくなっており、少ない人手でできることから取り組む体制づくり、効率的に地域内で支え合う仕組みづくりにも取り組んでいく必要があると考えている。
	(4)地域の自立促進のための取組	エコグリーンツーリズムの収益化、農産品の新商品開発やブランドづくり、人材育成と少ない担い手でも支え合う仕組みづくりにまずは着手していくことになると考えている。
	(5)経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）	企業との連携は重要と考えており、例えば事業者と農地の専属契約締結などで、農地の活用を図っていくことが考えられる。
	(6)その他の特徴など	- 越前市ではコウノトリ定着とコウノトリをシンボルとした地域活性化と環境保全の取組を行政・地域住民が一丸となって努力してきた実績がある。 - この実績、ポリシー、つながりを活かして、地域循環共生圏づくりにも取り組んでいきたい。
③ステークホルダーとの関係づくりの状況		各ステークホルダーとは現在、応募申請に向けた調整を進めているところであるが、いずれも既につながりのあるステークホルダーばかりであり、協力・賛同を得られやすい。
④プラットフォーム構築の可能性		- PF事業への応募主体は合同会社ローカルSDクリエーションとなる。 - もし採択された場合は、事務局をローカルSDクリエーションが担うことになると考えている。
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ（連携イベント、勉強会等に対するニーズ）		- 活動資金や支援制度などの情報提供を期待したい。 - 例えば、希少種・アベサンショウウオの保全活動に取り組んでいる団体があるが、高齢化が進んでおり活動の継続が困難になりつつある。そうした地域・団体を応援する制度などを教えてほしい。
⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性（応募の障壁となるもの）		応募予定であり、現在、各関係団体との調整を進めている。

7 ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握

(1) 代表的な行事後の行動変容の把握

- EPO 業務、ESD 業務、及び地域循環共生圏業務で連携等した関係主体に簡易ヒアリングを実施し、イベント業務等の各業務における成果として、関係者・登壇者等の行動変容について把握する調査を実施した。

1	ヒアリング	行事名	2021 年 6 月 26 日開催 地域循環共生圏 PS 基盤強化事業「ローカル SDGs×飯山」ミーティング
		対象	(登壇者) 里山ウェルネス研究会代表 宮澤豊氏
		方法	2021 年 12 月 9 日・電話ヒアリングを実施
		内容・結果	● 宮澤氏と同じく登壇者であった、いいやま学びの里コミュニティカレッジ学長・小島氏を通じて、いいやま学びの里コミュニティカレッジとのつながりができた。 ● 小島氏に招聘される形で、9 月 12 日開催「いいやま学びの里サマーカレッジ 2021 地域づくりフォーラム～奥信濃ローカル SDGs メッセに向けて～」の「地域実践リレートーク」に里山ウェルネス研究会メンバー 2 名が登壇・参加し、飯山林福連携プロジェクト（環境省同時解決事業 2018-2019 採択）の取組紹介を行った。 ● 6 月の EPO 主催ミーティングでは小島氏と長野財務事務所長・矢島氏との間で、続いて9月のフォーラムでも小島氏とフォーラム登壇者・中島恵理氏（元長野県副知事）との間で情報交換やディスカッションが盛り上がり、今後、地域づくり団体同士の交流や、地域及び地域活動の活性化を目的に、SDGs をテーマにしたイベントを飯山市或いは北信エリアで協力・連携して開催していきたいと話合っている。（残念ながらコロナ等の関係により、その後、具体的な進展までには至っていない。）

**いいやま学びの里サマーカレッジ 2021 地域づくりフォーラム
～奥信濃ローカルSDGsメッセに向けて～**



2020 年のいいやま学びの里サマーカレッジ 2020 では、2019 年の水害と 2020 年からの COVID-19 により、奥信濃が地域の持続可能性の危機に直面したことをふまえ、「誰一人取り残さない」(leave no one behind) を理念とする SDGs をテーマとして、「SDGs で危機を乗り越え未来を創る～持続可能な地域社会に向けた奥信濃からのメッセージ」というタイトルの地域づくりフォーラムを開催しました。またその後、5 回にわたり奥信濃 SDGs セミナーを開催してきました。

2021 年夏の第 5 波により、パンデミックの収束がいまだ見通せない日々が続いていますが、アフターコロナの時期に、奥信濃でローカル SDGs メッセを開催することを視野に、サマーカレッジ 2021 では、「奥信濃ローカル SDGs メッセに向けて」というタイトルで地域づくりフォーラムを企画しました。

このフォーラムでは、長野県副知事時代に SDGs 政策を推進された中島恵理さんに基調講演をしていただき、その後、奥信濃で SDGs に関連した地域実践に取り組むみなさんのリレートークを行いますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

日 時：2021 年 9 月 12 日（日）13：00～16：00
場 所：Zoom+パブリックビューイング（飯山商工会議所大会議室）
※Zoom 情報については前日 9/11 ホームページにてご案内いたします
（いいやま学びの里コミュニティカレッジ IIP QR コード →）

内 容：
①基調講演：13：00～14：15
講師：中島恵理（元長野県副知事）
「ローカル SDGs と一人多役のライフスタイル」
②地域実践リレートーク：14：30～16：00

お問合せ先：いいやま学びの里コミュニティカレッジ事務局（飯山商工会議所内：内堀）
電話 0269-62-2162 E メール iccci@iiyamacci.jp

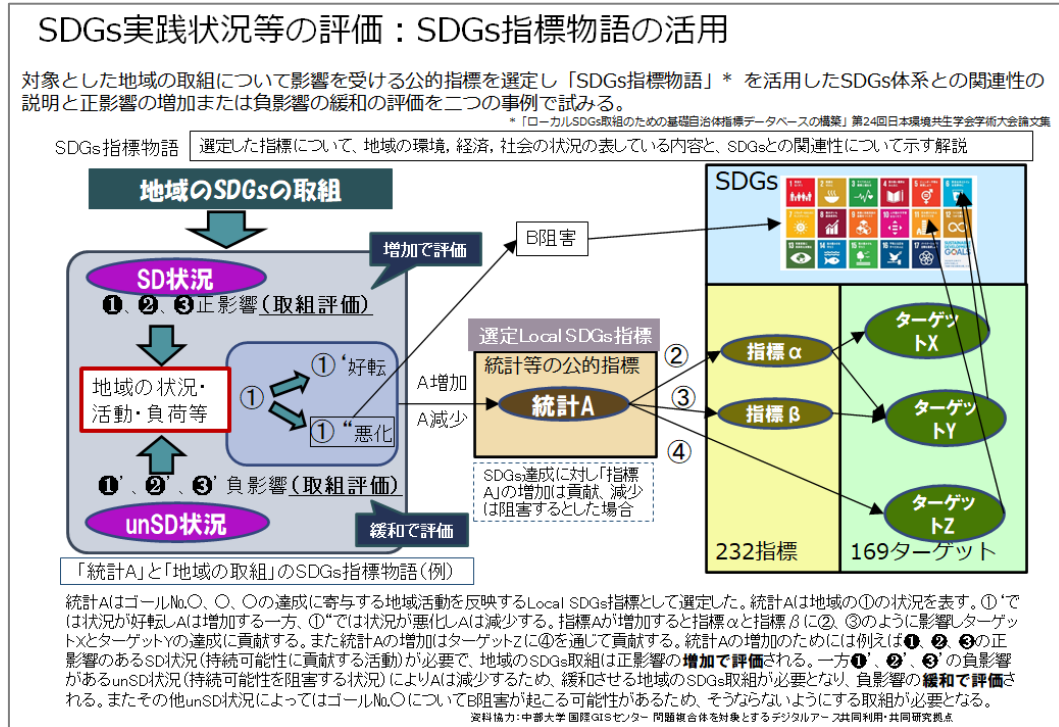
2	行事名		2021 年 8 月 26 日、9 月 19 日、10 月 30 日 SDGs 社会教育 学び合いの場①②&実践セミナー
	ヒアリング	対象	(登壇・協力者) 水上聡子氏 アルマス・バイオコスモス研究所代表 (登壇・協力者) 堺勇人氏 一般社団法人環境市民プラットフォームとやま事務局長
		方法	2022 年 2 月 21 日・電話ヒアリングを実施【水上氏】 2022 年 2 月 22 日・電話ヒアリングを実施【堺氏】
		内容・結果	【水上氏】 ● 8 月 26 日のオンラインセミナーで登壇。事例として坂井市の地元のまちづくり活動を題材とした話題提供を行った結果、直後に視聴した多数の地元参加者から肯定的な感想などの連絡が入った。事例関係者の活動について大きな動機づけが得られたと考えられる。 ● 事例関係者は、自分たちが関与した活動が外部から論理的に説明され、客観的な評価が行われたことで、活動についての価値を新たに認識している。 ● 他にも要因はあるが、事例活動が活発化しており、朝市やカフェなどいくつかの新しいアイデアが出ている。セミナーが一つのきっかけとなったことは否定できない。 ● 活動のキーパーソンに対する評価が変わった。事例関係者の気づきにより変人扱いされなくなり、いかに地域に貢献しているかが地元で評価されるようになった。 【堺氏】 ● 富山市 SDGs 推進コミュニケーターとして活動している市民が 10 月 30 日実践セミナーに参加して現場を知ることが大きな刺激となった。これが一つのきっかけとなって SDGs ミーティングへの積極的な参加、富山市 SDGs 推進フォーラムでは活動発表者として登壇している。 ● 10 月 30 日実践セミナーに環境に関心のある高校生が参加しており、イベント後大きな刺激になったと感想をいただいた。当人は環境に携わりたいとのことで将来環境省に入りたいと希望している。
3	行事名		2021 年 11 月 13 日-14 日開催 自然資本を活かした人づくり・地域づくり 立山黒部ジオパーク ESD ダイアログ 2021
	ヒアリング	対象	(共催者) 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 野田 一博
		方法	2022 年 3 月 4 日・オンライン会議ヒアリング
		内容・結果	● ダイアログをきっかけに ESD の意識が高まり、参加者やその関係者からの情報共有依頼やイベントの依頼などが舞い込むようになった。滑川市教育委員会からは、来年度ジオパーク現地での子どもたちの実験学習企画依頼があった。上市町教育委員会からも ESD の情報共有について相談があった。 ● 共催した一般社団としてはダイアログでの発言内容を整理し、内容を発言者に聞取りながら振り返る作業を行っている。これにより関係者の理解や認識が深まることが期待できる。その結果については順次 HP に公開していく予定である。 ● ダイアログをきっかけに新たな企画として 1 月 22 日に大正大学の浦崎太郎教授を招き、ESD 講演会「持続可能な地域づくりの担い手を育む教育」をハイブリッドで開催した。ダイアログの基調講演からの展開として『学校教育と立山黒部ジオパークとの接続』～新学習指導要領が描く世界（小学校から高校へ）のテーマで講演いただいた。リアル会場とオンライン合わせて 50 名以上の教育関係者、ジオガイド、一般市民が参加した。 ● 一般社団としては、これまで学校教育との連携を重視してきたが、SDGs 教育

			という点で来年度からは社団会員などの企業教育にも傾注していく方針である。
4	行事名		2021 年 11 月 20 日開催 越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム
	ヒアリング	対象	(登壇者／開催協力) 合同会社ローカル SD クリエーション社長 三田村佳政氏
		方法	2022 年 2 月 3 日・オンライン会議ヒアリング
		内容・結果	● 地域内の取組状況・内容を共有したことにより、参加した地域活動者・団体による地域循環共生圏づくりに取り組もうとするモチベーションが向上した。これをうけて、次年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に応募しようとの機運も高まり、応募に向けた調整を進めている。フォーラム参加団体はとても協力的・意欲的に賛同してくれている。 ● ワークショップでは様々なアイデアが抽出されたが、そうしたアイデアや意見を参加者が所属団体に持ち帰り、各団体の次年度計画等へ反映しようとする動きもみられている。
5	行事名		2021 年 7 月 13 日開催 ローカル SDGs スタートアップフォーラム（長野）
	ヒアリング	対象	(登壇者／開催協力) 長野県 NPO センター 山室 秀俊氏
		方法	2022 年 3 月 1 日・オンライン会議ヒアリング
		内容・結果	● 全 7 回のオンライン「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」のキックオフという位置づけを兼ねていたこともあり、その後の講座に多数参加いただきスタートダッシュ感が得られた。 ● 先輩地域としての小布施事例の紹介は刺激的だったようで、例えば芋井地区の住民自治協議会の職員の参加者はオンラインシリーズ皆勤賞となった上、他の研修会にも自主的に、参加し地元の関係者に持ち帰って説明するなどの行動変容が確認された。 ● フォーラム内で紹介した芋井地区の地域循環共生圏将来ビジョン案を元に、上記住民を通じて長野県 NPO センターがアドバイスし、「芋井地区リビングラボ」という内外の関係者交流事業が始まっている。様々なアイデアが出ているなど、小さな実験的な活動の芽生えがある。今後の展開が将来ビジョン案につながっていくことが期待される。
6	行事名		2021 年 9 月 11 日・12 月 17 日開催 小浜市地域循環共生圏ワークショップ
	ヒアリング	対象	(共催・協働コーディネーター) NPO 法人 WAC おばま理事 中嶋 阿児
		方法	2022 年 2 月 3 日・オンライン会議ヒアリング
		内容・結果	● 第 1 回目のワークショップは、特に市役所職員にとって参考となったようで、開催後に全職員を対象に開催してほしいといった声が聞かれた。 ● 小浜の地域づくり・まちづくりは、従来の地域活性化一辺倒から、中々脱却できずにいたが、今回の勉強会で SDGs や地域循環共生圏などについて学び、まちづくり協議会からの参加者などに、持続可能な地域づくりに向けた新しい流れ、変化を理解してもらうことができた。これからこのエリアでも、地域づくりの新しい潮流が生まれることが期待したい。

(2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

- 地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集を行い、3 地域（珠洲市、豊田市、岐阜市）を対象に SDGs 評価を試行的に実施し、2 月 19 日開催・SDGs/ESD ネットワークフォーラムにおいて活用した。

①評価方法の概要



② 3 地域の評価結果

